

令和2年度

No.9 3月12日

松 籟



発行者
穴水秀人

令和2年度を振り返って

昨日の11日（木）に、八田中学校第31回卒業証書授与式が挙行されました。館内は少し肌寒く身が引きしまり、適度な緊張感も相まって、厳粛な雰囲気の中で執り行われました。また、卒業生の最後の授業と位置付けられた第2部は、3年間での思いを真直に言葉や合唱に乗せ、保護者のみならず、職員や在校生の心を打つ感慨深いものとなりました。

実は、本日もいつもの習慣で、朝読書の時間に2階にある3年生の教室へ向かおうとしました。静まり返った寒々しい廊下や教室を見て、何か体の一部に穴が開いたような感覚を覚えました。いつも見ている3色のジャージが2色なってしまったこの時期は、やはりさみしく感じます。ましてや、見られないのが最高学年の3年生となるとなおさらです。改めて卒業生には「ありがとう。そして、おめでとう。」と労いの言葉を送りたいと思います。以下は、昨日の式辞の一部です。式に参加できなかった1年生や保護者の方々にもお伝えしたいと思います。

さて、只今、卒業証書を授与しました三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。今年度は、休校措置のみならず学校生活においても新型コロナ対策が最優先され、思い描いていた学校生活ではなかったと思いますが、皆さんにとって、この一年間はどのようなものだったのでしょうか。振り返ってみると、思い出とともに、皆さんの確かな成長を感じることができます。

生徒会活動の三本柱「合唱・応援・部活動」、どの活動をとっても三密対策が足かせとなり、頭を悩ませました。そのような中でも、できることはないかと知恵を絞り、生徒会本部役員や学年生徒会を中心とする3年生がリーダーシップをとり、例年とは一味違う充実した活動を展開させることができました。状況にもよりますが、とりやめることにも勇気が必要です。しかし、君たちは、正面から困難に立ち向かい、悪戦苦闘を覚悟する道を選びながらも、大きな成果を出しました。この経験は、君たちの今後の人生において、貴重な宝物となるでしょう。

11月に実施した修学旅行。県内では、早々に中止を決定した学校が続出し、本校のみならず、私個人においても、これほど気をもんだ修学旅行は、過去にありません。それ以上に、保護者の方々の複雑な心情は、はかり知れないものだったとお察しいたします。しかし、広島へ出向くことは叶いませんでしたが、君たちの、見学地における時空を超えたかのような驚き、宿舎での和やかな雰囲気、学校に到着したときの安堵した表情から、実施を決断して良かったと、今は心からそう感じています。

様々な活動でのこうした三年生の姿は、一、二年生に「私たちもあんな三年生になりたい。」というあこがれと目標を与えてくれたことと思います。本当にありがとうございました。

時は流れ、新入生を迎える令和3年度は、もう目の前です。3色のジャージ色が揃い、新3年生を中心とした新しいストーリーが展開されることに大きな期待を寄せ、今年度の「松籟」を終えます。